

「もっと響く指導」に
するために!

生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を2006年から12年まで伝えてきた「生きたデータの徹底活用」のコーナー。更に響く指導を実現するために、これまで掲載した記事を基に現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ 1年生1学期 保護者への意識付け



「生きたデータ」2007年6月号を参考に、
保護者に情報発信したところ……

- 「高校生の保護者」として知っておきたいポイント
- 学習や生活に関するポイント

- 規則正しい生活習慣と希望進路実現の相関関係は非常に高い
- 部活動の有無を問わず、起床・家庭学習開始・就寝の3点の時間の固定が大切
- 学校の教育方針、育てたい生徒像を知っている
- 子どもの勉強中は親は読書するなど、家庭内に勉強する雰囲気をつくる

- 文理選択、入試に関するポイント

- 教科の好き・嫌いではなく、就きたい職業や学びたい学問を踏まえた文理選択を行う
- 子どもの特徴や特性、適性を平素からできるだけ多面的に見るようにする
- 少子化＝大学入試易化は早計。大学によっては難化が進んでいる
- 学費以外の国公立大のメリットや、私立大の特色ある教育内容に目を向ける

私の狙い

「高校生の保護者」として知っておいてほしいことを伝えることで、学校への信頼感を醸成したかった

取り組み内容

1学期の保護者会で配布する資料の中に「知っておきたいポイント」をまとめ、保護者に自己点検してもらうようにお願いした

感じた課題

出来ていないこと、知らないことがあっても、具体的に何をすべきかが分からず戸惑う保護者が少なくなかった。結果的に学校と保護者の距離が広がったように感じた



「もっと響く指導」
のポイント

1

保護者の不安やニーズを探り、
期待感を高める発信につなげる



もうすぐ1年生の保護者会です。私は進路部に所属しているので、今回の保護者会で配布する資料を作成しています。以前、1年生の担任をした時に「高校生の保護者」として知っておきたいポイントをまとめ、保護者会で説明しました。こちらとしては「こういう状態を一緒に目指しましょう」と呼び掛けたつもりでしたが、保護者からは「私の知らないことばかり」「うちの子どもは全く出来ていない」と反応され、意に反して不必要なプレッシャーを与えてしまった面もあったようなのです。



それは、以前配布した資料が「チェックするだけ、伝えるだけ」というトーンで書かれたために、保護者が読んだときに不安や焦りを感じ、またチェックした後にはどうすればいいかが分からず戸惑ってしまったからかもしれません。確かに保護者に知っておいてほしいポイントなのですが、1つひとつは簡単なことではなく、この時期には出来ていないこと、理解できていないことがむしろ当たり前である内容も少なくありません。そうしたニュアンスが保護者に伝わらなかったのでしょうか。



そうなんです。情報として「伝える」ことは出来たかもしれませんが、「学校としての意図が伝わる」ことがなかったように思います。



保護者会の目的は、学校と保護者のチーム化です。そのためには、保護者の不安や疑問を学校がくみ取っていることを保護者に伝えたいですね。

若手先生代表

四国地方の公立高校に勤務。14年度は2回目の1学年担任。



A先生(30代)

中堅先生代表

四国地方の公立高校に勤務。14年度は1学年主任を務める。



B先生(40代)

*このコーナーは、高校の先生方(今回は中国・四国地方)との検討会の内容を基に構成しています。



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」活用改訂案

STEP 1

保護者に対して「こうあるべき」という理想像を提示するのではなく、出来ていないこと、気掛かりなことを尋ねる文言に修正する。1つひとつの内容は「本来はこうであってほしい」というものだが、保護者は「出来ていないことがあっても不思議ではないのだ」と受け止めやすくなる。

●保護者会に先立って「高校生の保護者」の不安やニーズを探るチェックシート

●お子さんの学習や生活に関して気になる項目をチェックしてください

- 子どもは、高校生になって生活習慣が不規則になった
- 子どもは、起床・家庭学習開始・就寝の3つの時間が日によってまちまち
- 学校の教育方針、育てたい生徒像が分からない
- 家庭内に勉強する雰囲気をつくれていない

保護者に知っておいてほしいポイントを、保護者目線を心掛けて記述すると、印象は大きく変わる。書き方がよく分からない場合は、先輩教師に尋ねると、よい言葉が返ってくるだろう。

●文理選択、入試に関して気になる項目をチェックしてください

- 子どもは、大学や将来の職業のことを十分に考えて文理選択しようとしているように思えない
- 子どもの特徴や特性、適性が分からない(分からなくなってきた)
- 大学入試(入試方式、入試科目・配点、難易度、倍率など)のことがよく分からない
- 成績以外にどんな視点で大学を選べばよいか分からない

STEP 2

保護者に気になる項目をチェックしてもらった結果を集計することで、その年の保護者に発信すべき情報の優先順位が見えてくる。ニーズの多い情報については、保護者会や夏休み前の三者面談で話題として取り上げたり、右のような形式でまとめて学年通信などの文書で伝えたりしてもよい。保護者の不安や疑問にタイムリーにこたえることで、学校に対する信頼感、期待感を高めることが出来るだろう。

学年通信例 ▶▶▶

1年生1学期 保護者が気になる上位3項目を解説します

1位 大学入試(入試方式、入試科目・配点、難易度、倍率など)のことがよく分からない

学年より◎近年、大学入試の仕組みはますます複雑化しています。本校では学年通信の9月号、10月号で「国公立大入試の仕組み」「私立大入試の仕組み」を解説する予定です。また、9月には外部講師を招いた……

2位 子どもは、高校生になって生活習慣が不規則になった

学年より◎入学者説明会で配布した資料でもご紹介しましたが、規則正しい生活を送ることは希望進路の実現と高い相関があります。では、生活習慣を規則正しくするために、保護者の方にはどんなサポートが……

「もっと響く指導」のために
改訂すると……



保護者会資料に「伝える」だけでなく、「不安やニーズを探る」役割も持たせてはどうでしょうか。ややもすると学校からの発信は「伝えたいこと」ばかりになり、保護者が知りたいことと乖離してしまうこともあるようです。上の例のように目的(不安やニーズを探る)を明示すれば、伝えたいポイントを「出来ていないかもしれない」という前提で表現できますし、チェック結果を集計して保護者ニーズの把握につなげることも出来ます。



これなら学校として大切なポイントを伝えることが出来ますね。保護者の不安感をあおることも少ないはずです。また、保護者は学校と双方向のやりとりをしている実感を得られそうですね。こうした保護者ニーズの分析を学年団で共有していけば、今後の学校からの情報発信に役立てることも出来そうですね。



ええ。事前に配ることが難しければ、保護者会当日に配布し、会の終了時までにはチェックしてもらってもいいですね。把握した保護者の不安や疑問には学年通信などで継続してこたえればよいのですから。

プラスαの検討ポイント

From 編集部

配布資料に さまざまな 工夫を施し 指導の核を伝える

今回の記事の検討会では、保護者向けの情報発信について、先生方がそれぞれの工夫をご紹介くださいました。例えば、キーワードを空欄にして穴埋め式の配布資料にすることで、資料そのものや説明に対する関心度を高めている先生もいらっしゃいました。「せっかくの機会なので、あれもこれも伝えたくりますが、学年団として『これだけは』という指導の核を明確にした発信が必要です」(30代の先生)。保護者の知りたいこと、学校としてぜひ伝えたいことという2つの視点で、発信内容を精選する作業が必要なようです。



「生きたデータ」2007年6月号を参考に、
指導フローの作成に取り組んだところ……

●卒業生の進学状況

生徒	入学時点の 学力 (進研7月 全国模試)	入学 時点の 進路志望	入学 時点で の 部活動加入	入試直前の 学力 (進研10月 全国模試)	入試 直前の 進路志望	部活動 継続 状況	志望校 の 可否	3年間の様子
A	SS65.5	専門学校	バドミントン 部	SS72.6	旧帝大 文学部	3年間 継続	○	予習重視のスタイルを2年間継続し、授業中に内容を理解するよう努力。定期考査や校内模試にもきちんと取り組んで学力を維持した。
B	SS61.5	国立 4年制大	サッカー部	SS61.1	国立 ブロック大 法学部	3年間 継続	○	定期テスト前には苦手科目に取り組み、部活動引退後は平日5時間の学習時間を確保。数か月後、急激に学力が向上。2次試験直前まで伸び続けた。
C	SS59.2	短期大学	なし	SS56.3	国立 ブロック大 教育学部	なし	○	1年次より予習や課題をきちんと自宅でこなし、分からないことは教師に積極的に質問した。放課後のゆとりを生かし、安定した学習量が確保できた。
D	SS59.0	国立	なし	SS54.7	地元 国立大	なし	×	予習をしたりしなかったりということが3年夏まで続いた。自分なりの勉強方法が定



「もっと響く指導」
のポイント

②

「共に育てる」信頼関係の醸成につなげる
合格までの道のりを我が子と照らし合わせ、

私の狙い

進学実績を、大学別の合格者数だけでなく、具体的な生徒像と共に伝えようと考えた

取り組み内容

1学期に実施した保護者会で過去の卒業生の合格結果、部活動の参加状況など、個人情報に留意し、適宜加工しながら紹介した

感じた課題

資料作成のための時間が少なかったため、「3年間の様子」は省略した。そのためか、「合格した生徒像」が今一つ具体的に伝わらなかった



保護者会では、卒業生の進学状況についても説明したいと思います。大学別の合格者数も紹介しますが、「成績が何番だとどの大学に合格しているのか」という関心に留まることなく、「どんな3年間を過ごした子どもが合格しているのか」という点まで踏み込んで理解をしていただきたいと思います。特に、入学時の成績や部活動の参加状況は重要な情報だと思うので、盛り込みたいです。ただ、前回の保護者会では、3年間の様子については、資料作成に掛ける時間が足りず、割愛しました。その結果、入試直前の学力と志望校の可否ばかりが目立され、残念ながら「合格できる生徒像から3年間の過ごし方を考える」ところまでたどり着けなかったように思います。



入試直前の学力や可否は3年間の結果ですから、1年生1学期の発信においても「3年間の様子」は重要です。この時期の保護者には「元気に学校に通ってくればそれでいい」と口にする方もいます。そうした保護者の本音を受け止めつつも、子どもの成長する姿と親がすべきことを明確にするチャンスを逃さないようにしたいですね。卒業生のどんなエピソードを伝えれば、保護者が高校3年間の子どもの変化に期待出来るようになるのかを、保護者会を契機に一緒に考えるようにしてはどうでしょうか。



私たちは、生活習慣や進路意識も「合格力」の欠かせない要素と考えていますが、そうした複眼的な生徒理解を保護者と一緒に進めていくことが必要なんです。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます！

生徒指導・進路指導ツール集

ベネッセ教育総合研究所

<http://berd.benesse.jp>

生きたデータ

検索

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご活用ください！

HOME→教育情報→高校向け→

生徒指導・進路指導ツール集でご覧ください

2007年6月号 1年生1学期の保護者に対する意識付け



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」作成改訂案

● 卒業生の進学状況



生徒	入学時点の学力(SS) (進研7月全国模試)	入学時点の進路志望	部活動	入試直前の学力(SS) (進研10月全国模試)	入試直前の進路志望	志望校の可否	3年間の様子	1年生夏休み～2学期の様子
A	国 66 数 58 英 69	専門学校	バドミントン部 (3年間継続)	国 69 数 64 英 74 〔得意科目〕 英語 74	旧帝大 文学部	○	予習重視のスタイルを2年間継続し、授業中に内容を理解するよう努め、定期考査や校内模試にもきちんと取り組みで学力を維持した。	各教科の課題をきちんと提出し、小テストもよい成績を収めていた。また得意だった英語は、計画的な学習ができており、学校からの課題以外にも、自主的に学習していた。
B	国 57 数 59 英 63	国立 4年制大	サッカー部 (3年間継続)	国 64 数 56 英 62 〔得意科目〕 日本史 72	国立 ブロック大 法学部	○	定期テスト前には苦手科目に取り組み、部活動引退後は平日5時間の学習時間を確保。数か月後、急激に学力が向上、2次試験直前まで伸び続	夏休みは、部活動のあとは図書館で勉強するなど、生活リズムを固定していた。また、通学時などのスキマ時間を活用した学習も行っていった。
C	国 60 数 55 英 63	短期 大学	なし	国 62 数 54 英 62 〔得意科目〕 世界史 66	国 ブロ 教育		さまざまな観点から、異なるタイプの卒業生を紹介することで、我が子はどんな高校生活を過ごすことになるのか、保護者はイメージしやすくなる。3年生の担任歴がない場合は、いろいろな先輩教師に聞くことで、タテのつながりができる。	ちゃんと自宅教師に頼りゆとりを確保でき夏休み、志望大のオープンキャンパスに参加したことで、学習意欲が高まった。秋以降、苦手科目の対策に取り組むようになった。
D	国 54 数 66 英 60	国立 4年制大	なし	国 52 数 56 英 52 〔得意科目〕 なし	地元 農大		た。	課題を出すことに精いっぱい、優先順位を自分で考えて学習することができないでいた。

「もっと響く指導」のために
改訂すること……



進学状況を介绍する時に、3年間の様子を盛り込むことは大切ですが、それ以外にもいくつか工夫が出来ると思います。例えば、入学時の成績は下位層だったが、最後は成績がアップして志望校に合格した生徒の3年間の様子を介绍することで、全ての生徒の学力に責任を持つようとしている学校の姿勢が伝わると思いますが、「そうした生徒を育てるために、全員で当たり前のことを徹底しよう」という学年団としての決意表明にもなります。また、学校によっては「合格の決め手になった学習法や教材」まで踏み込んでもよいかもしれません。



学習法や教材ですか……。そこまで細かく情報発信するのは、保護者の受験熱をおおることにつながりそうで、私にはちょっと抵抗感があります。



その気持ちは分かります。ただ、学校によって保護者、生徒の意識は大きく異なりますから、常に「自分が発信するこの情報で、保護者は我が子の3年間をイメージできるか」という点を検証することが必要です。本校も、保護者の入試に対する意識は高いですから、成績も国数英別に紹介し、更に得意科目の有無にも言及するなど、より踏み込んだ発信が必要かもしれません。本校の場合は特にここ数年、際だった得意科目を持った生徒が難関大に合格するケースが増えていますから。



頑張ったけれど不合格だった生徒も紹介したいです。というのは、結果は不合格でも人間的に大きく成長する、つまり「受験を通じた成長」を伝えることで、高校教育の意義を保護者と共有できると思うからです。

プラスαの検討ポイント

From 編集部

学校への信頼感を醸成する情報と、保護者への伝え方を吟味する

今回の記事の検討会では、「学校が伝えたいこと」と「保護者が知りたいこと」のギャップが話題になりました。「入試に対して保護者の関心が高い学校では、勉強法についても具体的に言及する必要があるでしょう」と、ある先生はおっしゃっていました。ただ、注意したいのは、それらの情報は全て「学校と保護者のチーム化に寄与するもの」であるべきだということです。学校が保護者と連携して生徒の学習状況を把握した上で指導したからこそ、生徒が成長できたことを保護者に理解していただくことが重要でしょう。